

センター試験の 分析と対応



渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校

① 2011年度「筆記試験」の分析と対応

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされた。設問形式が若干変わった箇所があるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、昨年よりやや易化し、平均点は昨年度より5点弱高くなり、122.78点となった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A: 単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B: 単語を正しいアクセントで発話する能力
第2問B: 対話がスムーズに流れるよう、適切な発話を考える能力
第3問A: 初出の表現でも、全体の流れから意味を類推する能力
第3問B: 発言の内容を要約する能力
が例年通り求められている。

また読解力をみる問題では、
第3問C: パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力
第4問: グラフや表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力
第5問: 父娘2人の発言を読み、イラストや英文を正確に把握する能力
第6問: エッセイの流れを正確に追い、論の展開をつかみながら長文を読み取る能力
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上での確かな情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

2. 具体的内容分析

<第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 発音 (8点: 解答数4)

基本的な単語の発音(母音と子音)を問う問題。アクセントのない母音の発音も問われた(問2)。やや難易度の高い語(monarch, ostrich〔問4〕)も出題された。

B アクセント (6点: 解答数3)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が1つずつ出題されたが、見出し語がなくなったため、個々の語の正確なアクセントの位置がより問われるようになった。ここでも、やや難しい語(supreme〔問1〕、epidemic〔問3〕)の出題があった。

<第2問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 語彙、語法、文法 (20点: 解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。動詞の用法を問う問題(I wish I had participated〔問3〕)は頻出である。語法やコミュニケーションの力を併せて要求する問題(put on weight〔問2〕、in the hope of ~ing〔問5〕、be supposed to〔問8〕)も相変わらず多い。基本的な動詞の区別(raiseとrise〔問1〕)、形式目的語(find it ~ to …〔問7〕)、不可算名詞や同義語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 対話文完成 (9点: 解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数はすべて4つになった。相手に同意しているかの状況をしっかりとつかみ(I know.〔問1せりふ〕)、文脈の流れ

を捉え (then [問2 選択肢])、会話特有の表現 (get over ~、go on with ~ [問2 選択肢]) に慣れておくことが大切である。

C 語句整序 (12点：解答数6)

各文の中に含まれる語彙・語法・熟語 (thank you for + (動) 名詞 [問1]、call + 人 + in ~ [問2]、help + ~ + 動詞の原形 [問3]) を使い、意味の通る文を作る問題。関係代名詞の省略 ([問1])、仮定の条件が言外に含まれる際の would ([問3]) といった文法の知識も必要とされる。

<第3問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 語やフレーズの意味類推 (10点：解答数2)

下線部の単語や表現の意味を全体から類推する問題。対話やパラグラフの中でどのように状況が推移しているのかを正確に読み取り、ヒントとなる語(句)をもとに想像力を働かせる。

B 発言の意図の要約 (18点：解答数3)

3人の発言の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の単語を使って言い換えている (like being a different person on stage を like to act out what you don't usually experience in real life で [空欄29]、your personality is similar to that of the character を the role fits your true personality で [空欄31]) ことが多いので、発言の主旨を理解し、まとめる柔軟な読解力が必要とされる。

C 適文補充 (18点：解答数3)

指定された空欄に選択肢で与えられた適切な文や文の一部を補う問題。選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語(句)に注意を払い、論が正しく展開するよう当てはめてゆく。[空欄33] では、前文の The preparation of batik requires great skill. と次の文の Therefore, のつながり方、[空欄34] では、それ以前の論の展開と、該当文選択肢の not the only と次の文の unique の使われ方の流れに注意を払う。

<第4問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A グラフ読み取り問題 (18点：解答数3)

本文とグラフを参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、設問では情報の内容を適切な表現で行う。本文中の reflect objectively

on their own values が think about one's own values and those of others [問3 選択肢] と対応していることを見抜く読解力も必要とされる。

B 広告読み取り問題 (15点：解答数3)

広告から適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所を的確につかむことが大切。

<第5問> (30点：解答数5)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

2人の発言をもとに、事実と感想の違いをとらえる。ここでも、本文の have plenty of space が選択肢では have enough room to relax [問1] に、本文の people turned and looked at us が選択肢では father drew the attention of other passengers [問2] に言い換えられている。父娘それぞれの発言から出来事を時間通りに追っていく丁寧さが求められる。

<第6問> (36点：解答数6)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

論説文を読んで質問に答える問題。段落構成を問う問題が段落の要旨を順に並べ替える問題になった(問6)が、論全体の意図をまとめる問題(問5)は例年通り出されている。各パラグラフのポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読み方ができる力が求められる。また、正解の選択肢は本文で使われていない単語(表現)で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

3. 昨年度から変化のあった点

- ① 総語数が約1割増加した。
- ② 第1問Aで、アクセントのない母音の発音を問う出題がなされた。
- ③ 第1問Bの見出し語がなくなった。
- ④ 第2問Aで対話形式が3問から1問に減った。
- ⑤ 第2問Cで、並べ替える文の前の説明文がなくなった。
- ⑥ 第4問Bで状況を設定する文がなかった。
- ⑦ 第6問(問2)で、本文で述べられていない内容を選ぶ問題が出題された。

③第6問(問6)で、段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になった。

4. 新傾向が見られる点

①第1問Aで、アクセントのない母音の発音を問う出題がなされた。

②第6問で、本文で述べられていない内容を選ぶ問題が出題された。

③第6問で、段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になった。

5. 日頃の学習で大切なこと

①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、対義語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。また、カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

②語と語のつながり(語法、Collocation)に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しや

すい組み合わせなら、より効率的に覚えられる。

③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文(主語と述語の区切れや省略等)に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つ一つの音に注意を払い、そして文全体の内容を理解しながら読み進める。何回も繰り返して読み込んでゆけば、なによりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

すべての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会うとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読みものでも、接続語やキーワードを手掛かりに論の展開がどのようになっているかを考え、最後まで通して読む。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

⑥多読を心がける

80分で4,000語程度の分量の英語を読みこなすには、ふだんから500~1,000語の文章をある程度のスピードで読むことが大切である。授業では精読を中心に行っているが、時には様々な分野の、比較的易しい文章に触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

Ⅱ 2011年度「リスニング試験」の分析と対応

1. 全体的な傾向

過去5年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点いずれも昨年度と同じである。読まれる総語数(1,100語強)は昨年度より1割弱増加した。読み上げ速度は昨年度より若干上がったが、自然な感じである。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題だが、音声面でのリダクションもあり、平均点は昨年度よりやや下がった。(今年度25.17点、昨年度29.39点、一昨年度24.03点)。内容はいず

れも生徒の日常生活や学校生活の中で起きうる身近な話題がテーマになっている。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル(12点:解答数6)

●男女2人の対話を聞き、イラスト、数字、語句を選択する

●各対話の総語数:30~40語

イラストや図、数字を見ながら英語を聞く。最初のせりふで状況をだまかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語(句)

や数字がすべて答えになるとは限らず、簡単な計算をする設問もある。キーワードは2番目～4番目のせりふに出てくるが、文脈の中でtwelve times for the cost of ten〔問4〕の意味がとれたり（下記下線部参照）、have a tooth pulledは選択肢のSee the dentistと同じことを意味する〔問6〕ことを見抜く能力も問われる。

問4

Man : Oh! Don't you use discount tickets?

Woman : But the bus fare is just a dollar fifty.

Man : Yeah, but with a pack of discount tickets, you can ride twelve times for the cost of ten.

Woman : Really? I'll get one now.

<第2問>対話応答補充（14点：解答数7）

●対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

●各対話の語数：約20～約30語

相手の述べたことへの自然な反応を考える。昨年度同様、本年度も応答の前のせりふはすべて平叙文であった。最初の2つのせりふから会話の場面や状況を想像したい。また、Guess what?〔問11〕、You look awful.やMy nose is running,〔問12〕等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

●各対話の総語数：50語前後

問14

Woman : Is there anything I can do to help with dinner?

Man : Well, I already set the table.

Woman : Then, how about if I pour the iced tea?

Man : Not just yet. The bread needs to be cut, and the wine's not open.

Woman : OK. Where's the cutting board?

質問 : What will the woman do first?

選択肢

- ① Open the wine.
- ② Pour the tea.
- ③ Set the table
- ④ Slice the bread. (正解)

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数は5か6のいずれかになった（昨年度は4、6、7）。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。せりふのThe bread needs to be cut,とWhere's the cutting board?から選択肢のSlice the bread.〔問14〕へと導けたり、せりふのin a rush〔問15〕といったフレーズ、save, delete, junk〔問16〕等の語彙を知っていて聞き取れるかがポイントとなる。

<第3問B>対話ビジュアル（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

●対話の総語数：約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。選択肢の数字がそのまま読まれるとは限らないし（8.8%がabout 9%）、解答欄④にalthough it's (=English is) more common than people who call themselves American, it's not even in the top threeでEnglishが入る場所が決まらないとAfrican-Americanが入られないように、情報が揃いきらないと答えられない場合もある。また、情報は上から順に出てくるとは限らないので注意が必要。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A（6点：解答数3）

●Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●各せりふの総語数：100語前後

問20

Moving to a new home with your pet can be difficult. Cats are very sensitive animals, and moving is quite an upsetting experience for them. When you arrive at your new home, it may be a good idea to put your cat in a quiet room, if possible. Leave him in peace with his old bed, his litter box, and some food until everything calms down. After that, let him come out and join you only if he wants to. He should also stay indoors until he becomes familiar with his new home and environment.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたり、まとめることがある（前ページ下線部を Protect your cat from the stress of moving. に）場合も多いので、要旨をまとめる力も求められる。

<第4問B> 説明文内容 Q&A (6点：解答数3)

●説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●説明文の語数：200語強

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況想定ができるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。要求された情報を正確に取り出す力が要求されるが、ここでも選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられている (they (=nursery rhymes) are often passed down orally from one generation to another in the homeが They are often introduced to children in the family. に [問23]) ことがある。話の流れが変わったり、固有名詞が出てきたりするので、メモを取りながら質問されるポイントの箇所を絞って聞くことも大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約45秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。

3. 対応のポイント

①状況・場面を想像する力を育成する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくすることも正しい聞き取りへの第一歩である。

②英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、a dollar fifty [問4]、the least accessible [問21]、be supposed to [問22] (筆記第2問問8にも出題) のようなフレーズは聞けるだけではなく、意味が自然にわかる程度まで聞き慣れておくようにしておきたい。

③対話の流れや方向性をつかむ

最後の発言に対する相手の応答を考える場合(第2問)、答えとなる情報はそのまま与えられて

いる訳ではない。それまでの話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。その際、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。最後まで慎重に状況を確認したい。

④言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は要求される。流れてくる英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、ある表現を別の形で言い換えている場合も多くある。正答のカギとなる情報をきちんと整理する能力も求められる。

⑤全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解する必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。リスニングでは聞き取れなかった箇所を悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すればいい」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

①英語の音を聞くことを習慣にする

「継続は力なり」とよく言われるように1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。センター試験の英語は自然で標準的なものである。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておき、英語を聞く抵抗感をできるだけ少なくしたい。

②聞いた音を真似して声に出す

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。そのためには、repeating、英語での Qs & As、dictation 等の基本練習を日頃から行っておきたい。

③語彙を増やし、自分で表現する練習をする

提供される情報の内容を理解するためには基本的な語彙力が必要である。知らない単語は聞き取ることができないし、あやふやな理解では誤った情報を受け取ってしまう可能性がある。また、内容を整理して別の表現で言い換える練習も積んでおきたい。

